

[Hondaの交通安全情報紙]

SJ

Since1971

SJ ホームページは

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03 (5412) 1736 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：原田洋一

※ご不明な点がございましたら、
下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ
安全運転普及本部係
TEL 03 (5439) 1191
E-mail : sj-mail@spirit.
honda.co.jp



Safety for Everyone

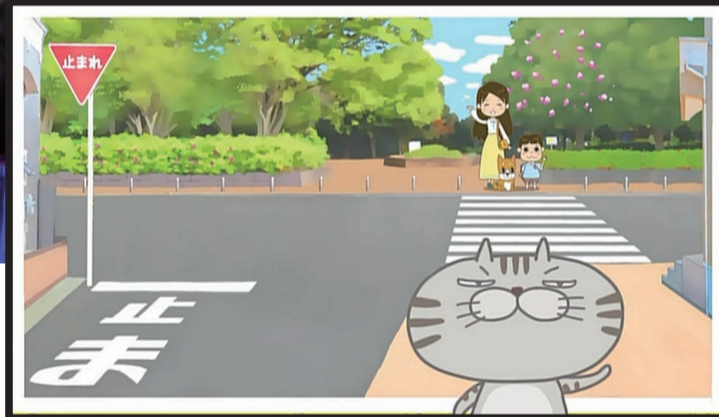
Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

2017
4・5
April・May

NO.483

CONTENTS

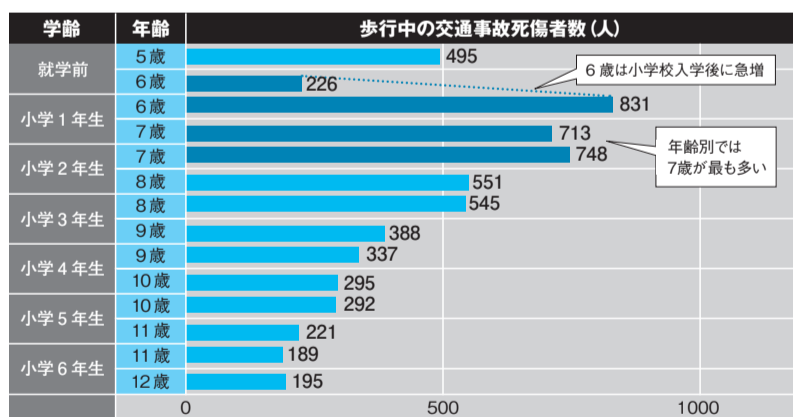
- P1 特集：幼児への交通安全教育
幼児の特性を
踏まえて安全意識を育てる
- P4 教育最前線 / Honda Cars による送迎安全運転講習会
現場訪問 / (一財) 日本救護救急財団
- P5 TOPICS ① / Honda Cars 群馬
Honda Cars 伊勢崎西
TOPICS ② / Honda 春のセーフティキャンペーン
実施中!
- P6 FRONT LINE / 大阪大学大学院 人間科学研究科
教授 篠原一光さん
- P7 危険予測トレーニング (KYT) / 高速道路の
サービスエリアを走行している時 (四輪車編)
SJクイズ
指導者ファイル / 福井県・鯖江市
交通安全教育指導員の皆さん
- P8 SAFETY FOCUS / 大阪府



特集
幼児への
交通安全教育

幼児の特性を 踏まえて安全意識を育てる

歩行中の年齢×学齢別の交通事故死傷者数 (2015年)



※出典：(公財)交通事故総合分析センター資料

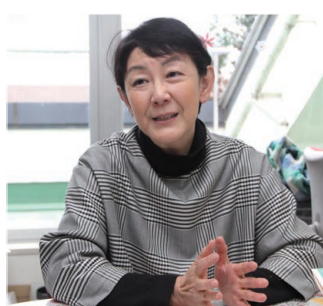
(公財)交通事故総合分析センターの資料によれば、歩行中の交通事故死傷者数を年齢および学齢別にみた場合、7歳の死傷者数が際立って多い。2015年の歩行中の交通事故死傷者数は、6歳では未就学児の死傷者数が226人であるのに対して、6歳の小学生は831人と大きく増加する。6歳から7歳にかけての死傷者数が多いのは、小学校入学による行動範囲の広がりが影響しているといえるだろう。そのため、小学校に入学するまでに子どもが一人で安全に行動できるようにするための教育が必要なのである。

子どもへの交通安全教育においては、それぞれの年代の特性を踏まえたアプローチが必要だ。その中でも、幼児期は交通安全教育に初めて触れる機会であり、生涯にわたる安全意識の土台を形成する大切な第一歩といえるだろう。今回は幼児期の交通安全教育に焦点を当て、指導に求められる教育的視点や地域、企業・団体による取組みについて紹介する。

幼児には「どうすべきか」具体的に示す

では、幼児に対して、どのような交通安全教育を行っていくべきか。発達心理学を専門とする目白大学人間学部教授の小野寺敦子さんは、指導者や保護者が幼児期の心理特性を理解しておくことが大切だという。「スイスの心理学者のピアジェは子どもの発達段階において、2〜7歳を前操作期(大人と同じような思考過程がとれる前段階)と呼び、この時期の大きな特徴の1つとして自己中心性を挙げています。自己中心性とは、わがままという意味ではありません。自分の視点からしか物事の判断ができないということことです。幼児の場合は、この特性を考慮して指導する必要があります。また、幼児は見かけが変わっても物の量は同じであるという「保存」の概念が確立していません。例えば、『ビーカーに入った水を、そのビーカーより細く背の高い形のビーカーに移したら水の量はどうか』という問いに対して『水の量が増えた』と答えてしまいます。つまり、思考は物の見え方に依存しているのです。前操作期は他者から自分がどう見えているかを想像したり、次にどうなるかを予測する能力が未発達で、こうした能力は5〜6歳くらいから徐々に獲得していくと小野寺さんは説明する。そのため、幼児段階では「止まる」「観る」という基本動作を繰り返し教えていくことが重要になる。

「教える時に意識してほしいのは『どうすべきか』を具体的に示してあげることです。例えば、『走ったら危ない』ではなく『歩きましょう』『止まる』はどこで止まるべきか、『観る』も何を観なければいけないか。交通状況は人間に



目白大学人間学部教授の小野寺敦子さん

特集
幼児への
交通安全教育

幼児の特性を踏まえて安全意識を育てる

よってつくり出される複雑なものなので、丁寧に教えてください。特に、保護者は小学校入学前にお子さんと一緒に通学路を歩いて、どこにどんな危険があるかを教えてあげるといいでしょう。その時に、お子さんが交通ルールを守っていたり、安全確認ができていたら、ほめてあげてください。それが自信にもつながります。

近年、教育現場では発達障がいの子どもの教育が課題になっており、交通安全教育においてもこうした子どもにも目を向けてほしいと小野寺さんは訴える。「発達障がいの子どもへの交通安全教育に焦点を当て検討することは、一般の子どもに対するよりわかりやすい指導方法にながっていくと思います」。

●ホンダの幼児向け交通安全教育プログラム
「できるニャンと交通安全を学ぶ」
ステップアッププログラム

「あやとりひよこ編」の
ステップアップ
プログラム

ホンダは、幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が必要であると考え、体験を通じた安全行動の基本を伝える教育プログラムや教材を開発してきた。これまで幼児向けの交通安全教育プログラムとして「あやとりひよこ編」を全国各地に普及し、多くの交通指導員の方々に幼稚園・保育園での交通安全教室に活用いただいている。最近ではホンダの四輪販売会社にも普及が進んでいる（5面参照）。そして昨年9月、新たなプログラムとして「できるニャンと交通安全を学ぶ」を完成させた。これは、「あやとりひよこ編」などで交通ルール・マナーを学んだ子どもたちのステップアッププログラムと位置づけられている。開発にあたっては、交通安全について「学ぶ」ことに加え、子どもたちが「たのしい」

と感じられるような内容をめざした。「できるニャン」というオリジナルキャラクターを使ったたり、歌や体操で子どもたちが楽しく学べるように工夫されている。

プログラムは「できるニャンとどうのわたりかた」「できるニャンたいそう」の2つで構成されている。幼児は見えないところに隠れているものを想像する能力や、他者視点に立って考える能力が発達途上にある。しかし、小学校入学後は一人で行動しなければならぬ場面が増えてくるため、その手前の幼児段階から道路上の危険を伝えていかなければならない。「できるニャンとどうのわたりかた」では、オリジナル交通安全アニメーションを活用し、映像で道路上の危険を知ってもらうことを目的としている。この映像は途中で停止させることが可能で、指導者が子どもに問いかける時間が設けられるようになっていて、これによって「道路のどこに危険があるか」を考えてもらうことができるのである。「できるニャンたいそう」は、「止まる」「観る」「待つ」という動作を習得しやすい振付の体操だ。身体を動かしながら楽し

「できるニャンと交通安全を学ぶ」
基本的な指導の流れ (計15分)

	時間	内容
はじめに	2分30秒	自己紹介など
できるニャンたいそう	1分30秒	映像に合わせて体操
できるニャンとどうのわたりかた	7分	危険場面を見せ、問いかけて答えを引き出す
できるニャンたいそう	1分30秒	映像に合わせて体操
まとめ	2分30秒	振り返り



交通安全啓発キャラクターとして誕生した「できるニャン」。教材にはDVDだけでなく、パペット（ぬいぐるみ）やペーパーサート（紙人形）作成用の画像データもセットになっている。

活用をご希望の自治体、警察、団体の方は下記にお問い合わせください。
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 地区普及課
TEL 03-5412-1150



く安全行動を身につけられ、交通安全教室の導入としての役割を果たす。

開発の途中段階では、アニメーション映像はどのような構成が子どもたちと対話しやすいか、体操はどのような振付が覚えやすいかについて、交通指導員の方々から意見をいただき、それらがプログラム制作に活かされている。目白大学教授の小野寺さんは、「楽しさを感じてもらうことは大切です。子どもは遊ぶ時は集中するので、遊びを通じた中の体験が一番身につくプロセスといえるでしょう。今の時代に合った手法だと思います」と、このプログラムを評価する。

体操↓映像
という流れが
子どもの印象に残る

昨年10月、茨城県つくば市内にあるかつらぎ第二保育園で園児80名を対象に交通安全教室が開かれ、指導を担当しているつくば市交通安全教育指導員の大川初江さんと佐々木信恵さんが、「できるニャンと交通安全を学ぶ」を行った。

はじめに、「できるニャンたいそう」を行い、その次に「できるニャンとどうのわたりかた」というアニメーションがスタート。主人公の「りっちゃん」が幼稚園から帰宅するまでのストーリー展開となっている。お母さんとの帰り道で交差点の向こうから友だちの「のりくん」が「りっちゃん」を呼んでいる。「りっちゃん」が「のりくん」に向かって走り出すと、「飛び出したら、あぶないニャン」と「できるニャン」が「りっちゃん」を制止する。

大川さんはここで映像を止め、「どうして、「飛び出したら、あぶないニャン」といっ



「できるニャンたいそう」。映像の振付に合わせて、楽しく安全行動を学べる

たのかな？」と質問。すると、「クルマにひかれるから」と声が上がると、「では、どうなるか、見てみましょう」と、「りっちゃん」に向かってクルマが走ってくる映像が流れる。「では、「りっちゃん」はどうやって渡れば良かったのかな？」と、子どもたちに問いかけると、「手を上げる」「右と左を観る」という声が上がった。大川さんは「そうです。でも、手を上げたり、左右を観る前にやってほしいことがあります。それは、きちんと止まること」と補足する。

この後、映像の中で「できるニャン」が「道路を渡る前は止まる。右を観て、左を観て、もう一度右を観るニャン」と、安全な道路の渡り方を解説。左右を観る時は観たい方向に顔を向けるように大川さんがアドバイスした。

最後に、もう一度「できるニャンたいそう」をして道路を渡る時の「止まる」「観る」「待つ」を復習した。かつらぎ第二保育園主任の柳田貴子さんは「体操を始める前に、指導員の方がポイントとなる



安全に道路を渡るための基本動作



振付を覚えてくれたので、子どもたちもとまることがなく、喜んで踊っていました。体操↓映像という流れが子どもたちの印象に残りやすいと思います」と話す。

大川さんと佐々木さんは「アニメーションのストーリーもわかりやすく、体操の振付も覚えやすく、楽しいものでした。子どもたちも安全確認の大切さを理解でき、安全行動を



つくば市交通安全教育指導員の大川初江さん(左)と佐々木信恵さん(右)

※あやとりひよこ編は Honda が三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児～小学校低学年対象の「あやとりひよこ編」、小学3～4年生対象の「あやとりひよこ編」、幼児～小学校高学年対象の「あやとりひよこ編 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりひよこ編 長寿編」がある。「あやとりひよこ編」は「あんぜんを やさしくときあかりがいていただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/>

